

『本屋さんで本当にあった心温まる物語』

川上 徹也／著 あさ出版 024.1/カワ/

本屋さんでは、日々、たくさんの出会いと奇跡が起きている…。感動的な話、元気が出る話、勇気をもらえる話、甘酸っぱくなる思い出話、くすっと笑ってしまう話など、本屋さんで実際にあった心温まるエピソードを紹介。

『生きづらいのは「ゆとり世代」だから、と思っている君たちへ』

尾木 直樹／著 ブックマン社 159/オギ/

3.11直後の段階における日本の若者の意識がどうなっていたのかを、尾木ママが当時行った座談会を再現する中で浮き彫りにする。また、若者の苦悩の背景と構造を、育ちと社会的・文化的な意味を解くことで明らかにする。

『学歴・競争・人生』

吉川 徹／著 日本図書センター 371.3/キツ/

これだけ教育が広く普及してしまった社会で暮らしていく以上、学歴と競争の問題は、どうしても人生につきまとう。不透明な将来を生きる若い世代へ、学校では絶対に教えてくれない、学歴と競争という人生のルールを紹介する。

『大きな音が聞こえるか』

坂木 司／著 角川書店 913.6/サカ/

八田泳、高校1年生。唯一の趣味はサーフィン。ある日、泳は叔父がブラジル奥地へ行くと知らされた。さらにアマゾン川の逆流現象 = ポロロッカで波に乗れるという情報を聞き…。

『Because I am a Girl』

ティム・ブッチャー／著 英治出版 933.78/ブツ/

「女の子だから」というだけで差別を受けることが当然とされる国で今日も暮らす、名もなき少女たちの物語。開発途上国にいった世界各国の7人の作家による書き下ろし短編集。

『ゲーテと人生を探そう』

岩村 行雄／著 ヴァーティカル 940.268/イワ/

人間よ、気高くあれ、親切かつ誠実であれ！ 新しい文学の創造者、知の巨人、行動の人、英知の人とさまざまな顔を持つドイツの詩人ゲーテの言葉を紹介し、そこに込められた人間の生き方を読み解く。

『元禄の雪』

斉藤 洋／作 偕成社 Z913.8/サイ/

戸城に忍びこんだ白狐魔丸は、吉良に斬りつけた浅野をとっさに止める。しかし、事態は思わぬ方向へむかい…。白駒山の仙人の弟子として修行したのち、人間に化けることが可能になった狐、白狐魔丸の人間探求の物語。

『お面屋たまよし』

石川 宏千花／著 講談社 Z913.8/イシ/

なりたい姿になれるというお面「妖面」は諸刃の剣。面をはずせなくなれば荒魂化し、人として生きていけなくなる。面作師見習いの太良と甘楽が出会うのは、妖面への耐えがたい思いに身を焦がす人々。時代ファンタジー。